

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. - (事務局用)	タイトル 室蘭に新たな観光客を呼び込むためのアイデア	自治体名 室蘭市
アイデア名 (注1) (公開)	Iburi Auction Train		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	チームプラザ		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム	<input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	3名		
代表者情報	氏名 (公開)	大森涼	
メンバー情報	氏名 (公開)	澤田 拓弥、吉田 勝宣	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

函館本線(函館—長万部間)と室蘭本線を利用する観光客に対して、列車内にて旅先への移動中に、胆振地域の食材を PR するオークションを通じて、室蘭市への観光客を呼び込むサービスを提案致します。

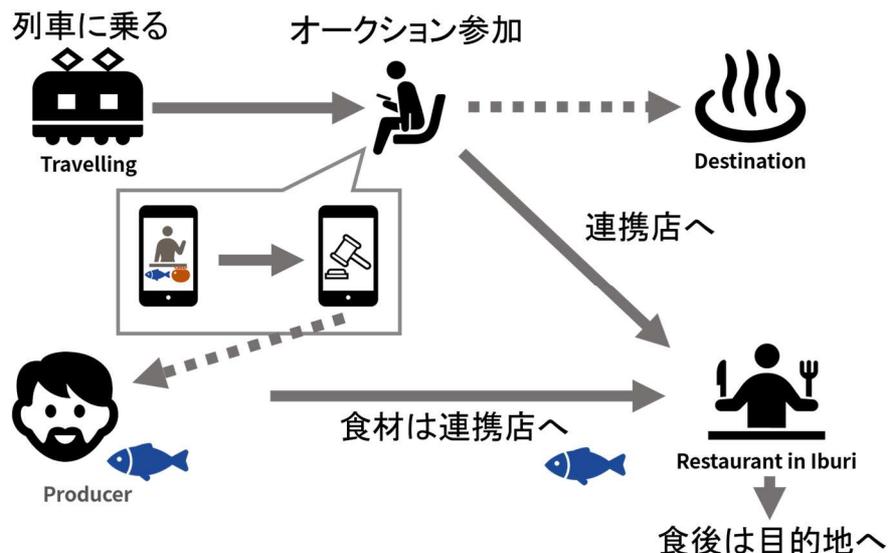


図 1 サービスの全体図

図 1 はサービスの大まかな流れを現した図です。オークションに参加するには JR の北海道フリーパスを持っている必要があります。私たちの提供するサービスでは、フリーパスに印刷された QR コードを読み取ることでオークションに参加することが出来ます。オークションでは胆振地域の特産品が出品され、参加者は専用のアプリを通して特産品の情報を知ることが出来ます。気に入った商品があればアプリを使いオークションに参加し、同時競り合い方式で入札額を上げていき、最も提示した金額の高い参加者が商品を手に入れることができます。

落札に成功した参加者は連携店（駅周辺の地元の飲食店）で食べる事が出来ます。食材は参加者が指定した連携店へ送られ、参加者はその最寄り駅で途中下車して料理された商品を食べることが出来ます。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

北海道新幹線延伸後、本州から函館、長万部を經由して札幌まで新幹線が通ります。そのため、新幹線の通らない、室蘭を含めた胆振地域への J R 鉄道の利用客は減ることが予想されます。そのため、新たに観光客を呼び込めるような列車内のエンターテインメントを設計しました。

提案するシステムの制約条件として、行動範囲は胆振地域の列車内と駅周辺に数多くある連携店。使えるものには、連携店の位置や料理などの情報、特産品の情報、列車やバスのダイヤがあり。変えてはいけないものに、列車を大きく改造すること、衛生管理とコストの面から食品を社内で直接取り扱うことなどがあげられました。このシステムのターゲットは J R のフリーパスを利用している観光客に設定しました。この理由として、J R フリーパスであれば途中下車して胆振を観光しても J R の追加料金が掛からないため、気軽に降りてもらい、室蘭にも呼び込むことができる可能性が高いと考えたためです。

これらの条件から、J R のフリーパスを利用している観光客に途中下車の動機付けを行うことができる方法を考えた結果、車内でオークションを行うことでそれを実現できると考えました。

その理由の一つは、オークションが出品物をより多くの人に知ってもらう方法として最も効果のある方法であると考えたためです。本来、オークションは売り手と買い手の都合で価格が変動する物や、貴重な物

品をより高額で販売するための方法ですが、私たちはオークションの買い手が積極的に商品に関する情報を得て、自らその価値を見出すという性質に注目しました。このため、ただ広告を出すより効率的に地域の特産品を P R することができます。

また胆振にはオークションで P R することのできる観光資源が豊富で、伊達では野菜が特産品として有名であったり、室蘭にはクロソイを始めとした魚介類などがあり、この点でも胆振地域にマッチしたシステムであると考えます。

表 1 は胆振総合振興局のデータの一部で、胆振地域の飲食店、喫茶店の数がわかります。このデータから読み取れるように、室蘭市には飲食店が数多くあり、それらの飲食店と連携して室蘭の特産品を観光客に提供することで、効果的に P R できると考えました。

第 7 3 表 食品衛生（施設数）

	合計	飲食店	喫茶店	菓子製造業
全道	128,006	60,919	7,635	5,052
室蘭保健所	4,742	2,425	257	105
室蘭市	2,193	1,233	134	82
登別市	942	458	62	34
伊達市	801	381	34	16
豊浦町	134	46	1	1
社管町	161	69	6	3
洞爺湖町	511	238	20	10
苫小牧保健所	4,725	2,334	320	171
苫小牧市	3,486	1,874	273	139
白老町	592	223	18	9
厚真町	128	43	6	3
安平町	241	89	12	6
むかわ町	278	105	11	6
滝川保健所	804	271	15	10
滝川町	461	164	13	8
様似町	134	41	2	1
えりも町	209	66	0	0
静内保健所	1,394	606	40	25
日高町	390	152	12	6
平取町	138	53	-	0
新冠町	121	53	3	1
新ひだか町	745	348	25	13

表 1：平成 2 5 年版 日胆地域保健情報年報

（平成 2 4 年度実績）

胆振総合振興局保健環境部保健行政室

<http://www.iburi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hgc/toukei/H25tiikijyouhounennpou.htm>

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

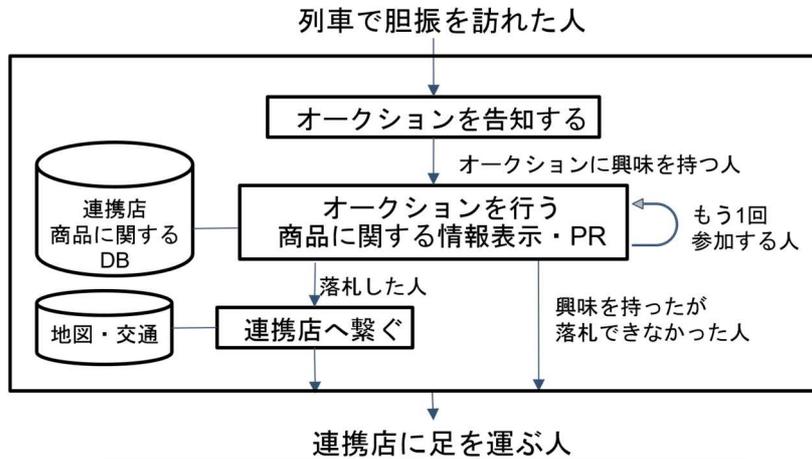


図 1：提案システムのコンポーネント図

アイデアを実現する主体は J R になります。アイデアを実現するには、

- ・オークションに食材を出品したいプロデューサーとなるヒト
- ・落札した後の食材を調理してくれる飲食店のヒト

が存在すること、食材と飲食店を繋ぐ、

- ・輸送にかかるコスト

が必要になります。

図 1 は提案するシステムのコンポーネント図です。列車で胆振を訪れた人に連携店に足を運んでもらうために、いくつかのシステムを用意し、それらが一つのシステムとなります。

まず、列車に乗車した人へオークションを告知するためのシステムですが、J R のフリーパスに Q R コードを印刷し、車内放送と車内パンフレットでアプリを参加者に配布する必要があります。ここで必要になってくる資源として、

- ・新たにフリーパスチケットをデザインするコスト
- ・車内パンフレットを作成するコスト
- ・車内放送を行うコスト

があります。次に、オークションを行うためのシステムです。これはスマートフォン用アプリとして開発します。入札を行う機能のほかに、商品に関する情報表示、連携店に関する情報表示などの機能を実装する必要があります。ここでは、

- ・オークション用アプリの開発コスト
- ・連携店、特産品の情報

が必要になります。

落札に成功した人を連携店へ結ぶためのシステムもアプリの機能に組み込みます。このシステムには、

- ・地図、交通情報
- ・開発費

が必要になります。

● 開発に関わる計画表(マイルストーン)

北海道新幹線の札幌延伸が開通となる 2031 年末までには事業として安定化を図りたいので、計画表としては以下のようになります。

作業	2018 4月	2018 8月	2018 12月	2019 4月	2019 8月	2019 12月	2020 4月	2020 8月	2020 12月	2021 4月	2021 8月	2021 12月	2022 4月	2028 4月	2029 4月	2030 4月	2031 12月
仕様書策定	←→																
システム設計			←→														
プログラム設計				←→													
プログラミング						←→											
テスト										←→							
運用													←→				

実際には、JR 側との交渉や連携店との協力なども考える必要があるため、開発とは別に様々な交渉や会議が考えられます。よって、開発の目途は 2022 年頃となりますが、2023 年以降も様々な運用の調整を行っていく可能性を含めたマイルストーンとしました。